

江田島市で活躍する人やお店をリレー形式で紹介! [広報えたじま連動企画]

ETAJIMA GoON!

TAKE FREE

VOL. 01

総
まと
め
SPECIAL MAGAZINE

思いを知れば、
もっと好きになる。



[発行] 広島県 江田島市 (企画部企画振興課)
2022年3月発行
[企画・編集] 江田島市地域おこし協力隊 牛尾 奈緒子
[SPECIAL THANKS] デザイナー 松岡 由希

ETAJIMA
GoON!
エタジマゴーオン

未来へGoON!

今、注目の人たち

20 番外編 **ゴーセン曳航株式会社**
能美町・高田
やっぽり、海が好き。

24 沖美町・三吉
Felice Kitchen
港のちいさな「幸せ」スポット

28 江田島町・鷺部
江田島オート
『好き』を生かして。

30 大柿町・小古江
江田島訪問看護ステーションえん
『家』という選択肢。

32 **ETAJIMA NEWS**
33 **GoONマップ**



CONTENTS

01 『ETAJIMA GoON!』

02 能美町・中町
NORA

みんなが「ほっ」とできる場所を目指して。

04 大柿町・大原
株式会社安原自動車
くるま、しごと、つながり。

06 大柿町・大原
寶持寺

平安と繁栄を祈願し続けてきた
お寺と住職のおはなし。

08 大柿町・柿浦
陶芸家 若狭祐介
誰かの人生へ作品を届ける場所

10 江田島町・中央
ぐるぐる海友舎
足を運べば運ぶほど 新しい発見がある場所

12 みんなのイチオシ図鑑

14 能美町・高田
光源寺
夫婦でを目指す『また来たい』と思える
“ふるさど”的なお寺

16 能美町・高田
山岡水産
家族とともに。牡蠣とともに。

18 能美町・高田
サイクリスト 小薦道雄
僕が江田島を走り続ける理由



江田島市の ステキビト

つなぐ・つながる、 つなぐ・つながる

素敵な人たちが紹介する人たちは、やっぱり素敵だった。

2021年4月スタート

江田島市で活躍する人やお店を
リレー形式で毎月紹介。
掲載された人が次の取材先を紹介する
“つなぐ・つながる”をテーマにした連載企画です。

気になる人の、好きなお店：
実はみんなつながっているかも？

話してみるとわかった、それぞれの思いを、
どんどんつなげて、広げていけますように。

働く場所でも、遊ぶ場所でもない。
みんなが集まって「ほっ」と出来る、
そんな場所にしたい。



(NORA・早稲田圭)



「母の味」で人気の日替わり定食から、喫茶店ならではのコーヒーやクリーミーソーダまでが楽しめる、喫茶のらのメニュー。

江田島市で子育てがしたいと思ったからだそう。江田島市で育ったまちにUターン。生まれ育った江田島市に横浜からUターンして2年。Uターンのきっかけは、子どもが産まれ、将来を考えた時に泊業と飲食業を運営、奥さんの慶乃さんは、女将業だけでなく、ヨガやSUPのインストラクターとしても活躍している。1日1組限定の民宿「体験民宿 NORA」を2020年に立ち上げ、「喫茶のら」を2021年にオープンさせた。民宿は元々観光客向けに始めたものだったが、宿泊客の中には江田島市で新しく何かを始めたと話す人や、地域の方々と交流したいという人も多くいた。「お客様のお話を聞いて、もっと地元の人たちとのかかわりを増やすため、民宿だけではなく喫茶店も始めようと思いました。たくさん的人が繋がる場所になればいいな」と、僕は地元出身なので、観光客だけじゃなく、江田島市に住む皆さんや、江田島市へ仕事で来ている皆さんに温かいごはんや美味しいコーヒーを楽しんでほしいと思つたんです」

ACCESS
中町港から三高方面へ海沿いの道をまっすぐ歩く約5分。小さな橋を渡ったら、左手にある大きな家がNORAです。
【車でお越しの方】
三高方面に進む途中で赤い自販機が見えたらすぐ左に曲がると、駐車場があります。
お問い合わせ：070-4030-0684



少し休憩したい時、誰かとお話ししたい時、
のんびり島時間と共に『美味しい』と共に

生まれ育ったまちにUターン。
地元の人たちとのかかわりを求めて

能美町中町港から歩いて約5分。窓からのぞく金色の「GORILLA」が目印の大きな家が「NORA」だ。満面の笑みで案内してくれたのは、オーナーの早稲田圭さん。生まれ育った江田島市に横浜からUターンして2年。Uターンのきっかけは、子どもが産まれ、将来を考えた時に江田島市で子育てがしたいと思ったからだそう。



おばあちゃん家に帰ってきたかのような懐かしい宿泊スペース。



女将は“リリー”としてヨガ・SUPインストラクターとしても大活躍！江田島市内では唯一のSUPヨガインストラクターでもあるので、気になる方はぜひお問い合わせを♪

ETAJIMA Go ON! Vol.1

What is NORA?

「NORA」ってこんなところ



Vol.1
能美町・中町

NORA
早稲田圭

みんなが ほっと
出来る場所を目指して。

地元を愛する圭さんと、いつでも元気いっぱいの奥さんは、今日を楽しみながら、前へ進んでいる。

圭さんは、面白くないことができる「面白くない」は

圭さんの故郷への想いと前向きな行動は、コロナ禍の中でも多くの人を惹きつける。近所に住むおじいちゃんやおばあちゃん、お昼休憩に駆け込むように店に入る働く人たち、情報交換を求めて訪れる市外の人たち：「僕はこの場所を、相談窓口まで固くはないけど、誰でも気軽に話をしに来れる場所にしたいんです。もちろん、人を呼び込もうだけではなくて、そのあとをどうフォローしていくか。訪れるみんなが『ほっ』とできる、そんな存在になればいいですね」

島から一度出たからこそ、江田島市の魅力を改めて感じた。地元の知人や友人たちが言っていた『島は面白くない』という言葉を聞いて「じゃあ、これから面白い場所にしていく」と決心した圭さん。地元のことだけでなく、外に出たからこそわかる経験や視点を活かして、自分の役割を見出し、自分たちだからできることを楽しみながら実行していくその姿には、周りの人も感嘆するほどだ。「島を楽しみながら働きまくる旦那と、島を楽しみながら遊びまくる妻。それでいいんじゃないですかね(笑)」

ディーラーのような対応ができる、
そんな気配りのできる自動車屋にしたい。

(株)安原自動車・安原紹満さん



ACCES

(株)安原自動車
／ダイハツ広島南店



<本社・ショールーム>
広島県江田島市大柿町大原 527-8
TEL : 0823-57-2103

<中古車展示場>
広島県江田島市大柿町大原 1030-1
TEL : 0823-57-6888



本社近くのスペースでは、中古車販売も行っています。



明るい本社ショールーム。

日頃の点検も丁寧に。

取材したこの日もお客様が次々と店舗に訪れていた。信用一番！と笑顔で話してくれた、明るく、パワーに満ちる安原さん。大切なこの場所を守りたい、江田島市を盛り上げたい。その思いや行動力は、きっと安原自動車の新たな道筋を作っていくだろう。

「最初は右も左もわからず。でも、仕事を通してもっと車に興味を持つようになつて、好きになつた。それから、僕は元々人と関わることが好きだったので、仕事を通してたくさんの人と繋がりを持てるようになったのは一番嬉しいことですね」店内には子どもたちが遊べるキッズスペースを設けるなど、誰でも気軽に入れるお店づくりを心掛けている。「田舎だからといって、妥協しない。ディーラーのような対応ができる、そんな気配りのできる会社にできればと思つて、なんとかここまでやつきました」実際に、ダイハツからディーラー認定を貰い、今では『ダイハツ広島南』という名前で店舗を運営する形となつた。「どうしても車が生活の一部になる地域なので、車の問題、トラブル、困ること：たくさんあると思うんです。その問題を一緒に解決して、生活の支えになるように、これからも地域の皆さんに貢献できるような会社でありたいと思っています」

大柿町大原にある安原自動車は1979年創業、40年以上続く自動車屋だ。代表を務める2代目・安原紹満さんに話を聞いた。「両親は家庭に仕事を持ち込まない人でした。だから正直、どんな仕事をしているのか、全く知らない状態だったんですね」紹満さんは京都で就職後、22歳の時に地元に帰り、30歳で2代目として安原自動車を継ぐことになった。

人とつながりを大切に 地元に根付いた仕事を

地元で活躍する友人に刺激をもらい、 新たな活力を見出した

安原自動車は現在、カーシェア事業を始め、江田島市内にある自動車屋（18社）の組合の専務も務めている。「人口が減つて、お客様も減つて。どう仕事を確保していくか、常に考えています。各社が困らないように、組合の体制をしっかりと整えることもそうですし、商圏を広げる取り組みも考えていかなければならない。江田島での仕事が無くならないように、継続していくように頑張っています」

自動車屋でのきる範囲は限られている。楽しい、面白いことを率先してできる業種ではない。それでも、周りで活躍する友人たちの姿が刺激になり、安原自動車は少しずつ変わってきた。「みんなが地元に帰つてきてくれて、それの場所で活躍する姿を見るたびに、とても刺激になっているし、何より心強いと思える。僕も動かなきや駄目だ！」って気持ちになるんです。集まつて話をしていくと、自然と『地元を盛り上げたいね』とか『どうにかして過疎化を食い止めよう』なんて話にもなるんですよ」冗談半分、本気半分で友人たちと新事業の話もすることがあるという。安原さんをはじめ、友人たちすべてに共通するのは『江田島市を盛り上げたい』という熱い思いなのだろう。

「僕は引き継がせてもらつた立場として、会社を存続させるこというプライドもあります。その中で、安原自動車としてできることは何か、今までにない仕事をどう増やしていくか。夢を見るだけじゃなく、実現できるように、悩みながら、少しづつ道を切り拓いていけたらと思います。まずは、現状維持…いや、現状維持以上を目指します（笑）」

ETAJIMA Go ON!

Vol.2



写真撮影：コニシッシュンスケ

くるま、
しごと、
つながり。

Vol.2
大柿町・大原
株式会社安原自動車
あきみち
安原 紹満

作品一つひとつと向き合って
一人ひとりと向き合っています。

陶芸家・若狭祐介さん



Go ON!



寶持寺
山下崇晴さん



工房では、陶芸家・蓮尾寧子さんと並んで作品づくりに没頭。2階にあるギャラリーでは2人の手掛けた作品を買うことも可能です。

その時、若狭さんの祖父が寝る間を惜しんで、夢中になっていたのが、陶芸だった。すごく楽しそうな祖父の姿を見た若狭さんは、次第に陶芸に興味を持つようになっていったという。「朝から晩まで、ずっと作業を見ていたのですが、祖父はお前もやってみるか?」とは言わない。そしたら自然と触つてみたくなって。いざ陶芸をやってみると『なんかしつくり来た』というわけです(笑)陶芸の道へ進むきっかけをくれた祖父との思い出と共に、導かれるように移り住んだこの地。若狭さんにとつては、ある意味この場所が、パワースポットなのだろう。

祖父の後押しで、本格的な陶芸の道へ

陶芸に触れるうちに、思い出していくモノづくりの楽しさ。気づけば、陶芸にハマっている自分がいた。「僕って図工が好きだったなあ…と陶芸に触れた

いた祖父だった。「当時は社会に対する反抗心もあつたし、勝手に裏切られた気持ちになっていたんです。そんな時、家族とか周りにいる人たち以上に僕ときちんと向き合ってくれたのが祖父でした。ああしろ、こうしろとも言わず、大きな包容力で包んでくれる。だから、毎週末何をするわけでもないのですが、広島市内からバイクでここまで来て、祖父と一緒に時間過ごしていました」

その時、若狭さんの祖父が寝る間を惜しんで、夢

中になっていたのが、陶芸だった。すごく楽しそうな祖父の姿を見た若狭さんは、次第に陶芸に興味を持つようになっていったという。「朝から晩まで、ずっと作業を見ていたのですが、祖父はお前もやってみるか?」とは言わない。そしたら自然と触つてみたくなって。いざ陶芸をやってみると『なんかしつくり来た』というわけです(笑)陶芸の道へ進むきっかけをくれた祖父との思い出と共に、導かれるように移り住んだこの地。若狭さんにとつては、ある意味この場所が、パワースポットなのだろう。

陶芸に触れるうちに、思い出していくモノづくりの楽しさ。気づけば、陶芸にハマっている自分がいた。「僕って図工が好きだったなあ…と陶芸に触れた

違うを生みだし『超えるモノ』を作

制作過程の中で『違うとは何か』を常に考えているという若狭さん。「たくさん陶芸家がいますが、僕たちはどうしても違いを出さなければいけない。多くの人に作品を届けたいからこそ、何を作るにしても、違いを生みだすことを僕はとても大事にしています」若狭さんは日常で使える器類からオブジェまで、さまざまな作品を作っている。「どちらかといふと造形作品が好きで、オブジェを作つてたのですが、デツサンや形を一からひねり出すだけ物凄く時間がかかるし、体力的にもしんどい。そういう時の発想転換で、美術的要素も含まれたモノ



陶芸家夫婦が肩を並べて、作品づくりに勤しんでいる、陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。思いがたくさん詰まつたこの場所から、若狭さんは今日も誰かの人生に作品を届けている。

陶芸家夫婦が肩を並べて、作品づくりに勤しんでいる、陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。思いがたくさん詰まつたこの場所から、若狭さんは今日も誰かの人生に作品を届けている。

ETAJIMA Go ON!

Vol.4

Vol.4
大柿町・柿浦
陶芸家
わかさ
若狭祐介



写真撮影:コニンシュンスケ

導かれるように 祖父との思い出の場所へ来た

若狭祐介さんと蓮尾寧子さん夫婦が営む、看板の無い陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。全国各地のお店や展示会で巡り合うことのできる2人の作品は、ここから生まれている。若狭さんは、10年前に祖父の家であつたこの家へ、同じく陶芸家である妻の寧子さんと共に移り住んだ。「環境は制作に適していると思います。気候も穏やかで、静かで。元々、祖父が住んでいた場所という地縁もありますし、とても気に入っています」

優しい眼差しでお話してくれるたくさんの思い出話。その中心には【祖父】の存在があった。「これから的人生を決めていく時に、自分がしたいと思えることが何もなかつたんです。この先どうしたらいいのかと何年も悩んでいた時期があつて、閑々として過ごしていました」10代半ば、思春期を迎えた若狭さんに向き合つてくれたのが、この家に住んで

誰かの人生へ 作品を届ける場所

陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ
陶芸家夫婦が営むこの場所には
たくさんの素敵なお思い出と
美しく、温かい作品が詰まっています。



陶芸工房

工房併設ギャラリー・10サンジ

0823 57 6020
(※見学は事前連絡が必須です)

本来の目的プラス、違うものを
得ていけるような場所にしたい。

ぐるぐる海友舎プロジェクト
なんかわ
南川智子さん



GoON!



陶芸家
若狭祐介さん

ETAJIMA GoON!

Vol.5

来年には活動10年目を迎える。メンバーも設立当時の5人から増え、今では15人になった。「途中から参加しているメンバーもいるので、活動初期の事情などは知らない。だから、みんなで改めて活動を振り返ることで、これからの発展に繋げたいなと思っています」メンバーは職業も年齢層もバラバラ。市内外から個性豊かなメンバーが集い、思いを繋ぐ場を創り出している。「私が代表という立場でここまでやってきましたが、〇〇をするぞ！なんて意気込んだりはしません（笑）。「こんなことがしてみたい！」という意見が出れば、その都度みんなで話し合って活動をしています」

月に1回、第二日曜日を活動日として建物の掃除や手入れなどをを行い、海友舎の管理に努めている。掃除は誰でも参加でき、その場で海友舎に訪れた様々な人と交流できるのも魅力のひとつだ。掃除が終わつた後には必ずメンバーでのミーティングを実施。思いを口に出して、実現できるようにみんなで手伝いをしている。多くの人を巻き込んで海友舎を活用し、保存していくのがぐるぐる海友舎プロジェクトの面白いところでもあるのだ。「毎年予期せぬ出会いがあつて面白いんです。訪れてくれた人たちとの出会いの中で、活動の幅が広がっていくことが魅力ですし、私自身とても楽しく感じています」

訪れた人の対話を大切にし、「繋がる場所」を創り出す。関わってくれる多くの人の思いと共に、海友舎はコミュニティの場として再生し、新たな観光資源として、昔と変わらない場所から、今日も流れゆく江田島の時間を見守り続けている。

コロナ禍による活動自粛を経て 気づいた新たな魅力と可能性

地道な活動を続けて9年。市外から海友舎を訪れる人も増えた。しかし、江田島市内には「ぐるぐる海友舎プロジェクト」という団体も、海友舎という建物の名称すら知らない人も未だ多くいるとい



写真上：アカイブルームにはこれまでの活動を振り返ることのできる数々の資料が。
写真下：オリジナルグッズの販売も。グッズの売り上げは海友舎の補修・維持費として使用されます。

う。「この周辺に住んでいる方々の中にも、私たちのことを知らないという人もいらっしゃいます。だからこそ、地道に活動を続けるしかないんです」そんな中起きた、コロナウイルスの流行。やむを得ず、活動も一時中止となつた。

一方で、このコロナ禍をきっかけに、新たな動きも起つた。「地域行事が全て自粛・中止となつてしまい、少し時間に余裕ができた人が増えたのか、近所の方々が海友舎を覗きに来てくれるようになつたんです。これまでには、ご近所さんに挨拶に行つても『手伝いたいけど、手伝う時間が無い』といった方が多かつたんですが、時間ができたおかげで、お庭の手入れなどを手伝ってくれる人が増えました。コロナ禍で、ぐるぐる海友舎プロジェクトとして大きな活動はできなかつたけど、今までお会いでできなかつたご近所さん達と初めて繋がることができた。改めて考えると、私にとっても、海友舎にとつても素敵なお時間だったと思つていてます」

手伝ってくれる人が増えると、これまで手入れできていた花が綺麗に咲いた。自然と鳥が海友舎に訪れ、見たことの無い綺麗な蝶々も飛んできた。「今まで、建築や歴史好きな人が海友舎に来ることが多かったのですが、お花や草木が好きな人も来てくるようになつて、新しい広がり方ができました！景観や自然が好きという人が、噂を聞いて海友舎に来てくれたことに感動しました。9年目にし

て初めて気づいた新たな海友舎の魅力ですね」

江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

2020年2月にはNPO法人化され、



**個性豊かなメンバー達と
【繋がる場所】を創り出す**

代表の南川さんは広島県生まれ。母が江田島市に住んでいた関係で、子どもの頃は夏休みに遊びに来たり、ミカン狩りなどを楽しむ場所として、とても良い思い出のある場所が江田島市だったという。再び江田島市に訪れるようになつた2012年、海友舎に魅了された南川さんは【自分たちで手入れをしながら残していく】という方法で、海友舎を後世に残すため『ぐるぐる海友舎プロジェクト』という団体を、有志で立ち上げた。2020年2月にはNPO法人化され、

江田島町中央。江田島町のシンボルともいえる第一術科学校から少し歩くと、江田島の歴史を見守り続ける「海友舎（かいやうしゃ）」がある。元々は旧海軍兵学校関係施設で、兵士たちの娛樂兼福利施設だった海友舎。空襲さえも免れた歴史的建造物を、解体の危機から救い、地域のコミュニティの場として再生。【繋がる場所】を創り続いているのが『ぐるぐる海友舎プロジェクト』だ。

Vol.5 江田島町・中央
ぐるぐるプロジェクト
なんかわ
南川智子



『ぐるぐる海友舎プロジェクト』
最新ニュースや
お問い合わせについて
ホームページをご覧ください

Kaiyouuya

足を運べば運ぶほど
新しい発見がある場所。

みんなの

イチオシ 义鑑

これまでGOONに登場したみなさんに江田島市の
買える、食べれる、おススメのものを聞きました。
お土産やグルメ、新商品まで、要チェックです！



Recomend /

01
SHOP

平井興産の
「江田島すっぽん」



希少価値の高いすっぽんを、産卵から生育・出荷まで一貫して養殖!江田島すっぽん・切り身は、瞬間冷凍機で急速冷却させているため、肉の劣化が少なく鮮度抜群。コラーゲンたっぷりの高級食材を、ぜひ自宅で気軽に楽しんでみてください♪

価格:200g 3,240円(税込)／400g 5,400円(税込)

Q「江田島すっぽん」で検索

02
SHOP



てくてくのさつまいも本舗



住所:江田島市大柿町大原261-1

(「藤三 大柿店」駐車場内)

電話:0823-57-6868

営業時間:10:00~16:00

定休日:火曜日(祝日の場合もお休み)／駐車場あり

熟成させたあまい紅はるかを使用!人気の壺焼き芋(500円)はGoONにも登場した若狭祐介さん

監修の自家製壺でじっくりと焼き上げて♪できてきたはホカホカ、甘々、ねっとり食感で大人気!大人な

味わい!ラム酒が染み込んだ、サツマイモの甘露煮が入ったバターケーキ(280円)もおすすめです。

03
SHOP



新北京

住所:江田島市大柿町大原479-5

電話:0823-57-3782

営業時間:毎日 11:30~14:00／17:30~20:00

定休日:水曜日／駐車場あり

地元で人気の名店「中国料理 新北京」。ランチタイムに大人気の中華そば定食(750円)は、あっさりスープの中華そばに、新北京の人気メニュー酢豚が付いてお得意満載♪おすすめにあがった五目あんかけ揚げそば(650円)は、アツアツのあんかけにサクサクの揚げそばが最高にマッチしています!

04
SHOP

紅来軒

住所:江田島市江田島町中央3-2-20 1F
電話:0823-42-2656
営業時間:11:30~13:30／17:00~21:00
定休日:火曜日／駐車場あり
海上自衛隊第1術科学校からすぐ近く。中華料理店の『紅来軒』安くで早くていが代名詞のラーメン(400円)は大定番の人気メニュー。鶏からあげ(750円)はとってもジューシー!おもわず何個も食べちゃうやみつきの旨さでおすすめです。



05
SHOP

マルサ・やながわ水産の
「瞬間冷凍カキフライ」



大粒で旨味がぎゅっと詰まっているやながわ水産の牡蠣。定番のむき身や殻付きはもちろん、水揚げされた牡蠣を瞬間冷凍したこだわりのカキフライ(20個入り・3,240円)はジューシーで牡蠣の旨みたっぷりな商品。自宅でさくっと簡単に、江田島市の特産品をカキフライで味わってみて!
Q「やながわ水産」で検索

06
SHOP



瀬戸内いとなみ舎の
「オリーブ新漬け」

嗜めばじゅわっと、やわらかめの果肉からコクが広がる!島のみなさんが大切に育てたオリーブを、塩水で漬けた大人気のオリーブ新漬け。保存料を使用していないので、誰でも安心して食べていただけます。オイルを含んだ果実の旨味を存分にお楽しみください。

価格:瓶 600円(税込)／ボリ袋 500円(税込)

Q「いとなみ舎」で検索

07
SHOP



ベイネット工房の「紙布バッグ」

世界各国から厳選したテキスタイルを使用し、その日の装いや気分に合わせて選べるさまざまなバリエーションのバッグ「étoffe(エトフ)」。そんなエトフと江田島市の伝統的な産物「紙布」のコラボ商品が誕生!江田島市では江田島市觀光協会や江田島荘などで購入可能です。

価格:透明クリールSET 10,500円(税別)／グリッタークリールSET 11,000円(税別)

※エトフ専用のビニールカバー「clair/クリール」とのセット販売

お問い合わせ先:hiroshimabaynet10@gmail.com／電話:090-4651-0752

08
SHOP



海友舎の「てぬぐい」

GoONにも登場!海友舎のオリジナル手ぬぐい(800円)は、写真では表現できない海友舎のイラストと共に、メンバーが活動の中で発見した海友舎のディテールやエピソードが描かれています。収益はぐるぐる海友舎プロジェクトの活動資金として活用します。(海友舎についてはP.10をご覧ください)

GoON!



光源寺

うみたに

海谷 真貴子さん

ぐるぐる海友舎プロジェクト
南川智子さん

ETAJIMA GoON!

Vol.6

夫婦で 目指す 『また来たい』 のようなお寺



Vol.6
能美町・高田
こうげんじ
光源寺
うみたに
海谷 真貴子

こんな時だからこそ、
お寺をみんなの『心の拠り所』に。

光源寺
うみたに
海谷 真貴子さん



高田の風物詩とも言える『えたじま手づくり市』の様子。
開催を心待ちにしているファンがたくさんいます。

浄土真宗本願寺派 光源寺

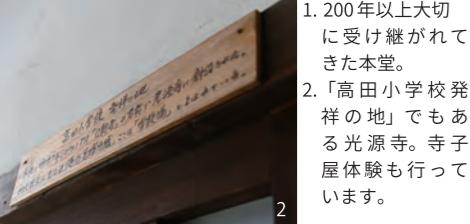
江田島市能美町高田 3093-1

☎(0823)45-2422

詳細は HP から▶▶



1



1. 200年以上大切に受け継がれてきた本堂。
2. 「高田小学校発祥の地」でもある光源寺。寺子屋体験も行っています。



3

3. 本堂の前で綺麗に咲いていたサルスベリ。高田の町を見渡せる境内も見渡せるところ満載です！

1

たら嬉しいねと、イベントに詳しい方々を中心に実行委員会を立ち上げ、手探しで始めました」島のみなさんが作る手づくり品や特産品、花や野菜：たくさんの手づくり品が集まる境内が、その日限定で小さな市場となる。手づくり市は、訪れた人たちがお寺という空間に触れながら、思いの時間過ごすことができる、高田地区の風物詩とも言える催し物となつた。

現在、手づくり市はコロナ禍における2度の中止・延期を経て、次の開催を控えた状態で止まっている。「手づくり市は、楽しいことはもちろん、ただ賑やかに」というものではなく、お寺という空間にゆっくり浸つてほしいという思いで開催している。例えは出店以外にも、寺子屋劇団による子どもたちの公演、音楽ライブ、お茶席、モノづくりのワークショップなど、手づくり市でご縁を感じながら、お寺でほっこり過ごしてほしいと思っています」

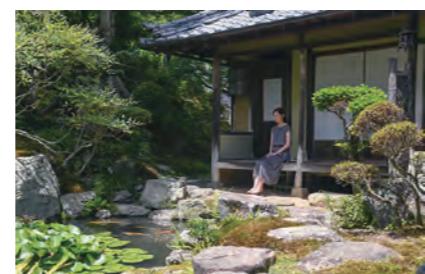
島内外の人びとから愛されている手づくり市。「今はできなくても、思ははこのまま。これからも長く開催できるといな」と微笑む真貴子さんの温かい人柄も、手づくり市の魅力のひとつなのだろう。

みんなの「心の拠り所」に。

気軽にこの空間に触れてほしい手づくり市の他にも、光源寺ではさまざまな試みをしている。ある時はお寺がヨガ教室に、ある時は小さな映画館に、ある時は子どもたちの集う場に：足を運んでもらうきっかけづくりを夫婦と一緒に考え、実行している。「200年以上大切に受け継がれてきたこの本堂をお預かりするのが私たちの役目です。仏事を通じて仏さまの教えに触れていただくことが中心だけど、気軽にお寺を訪れる、みんなで一緒に笑える空間にしたい。こんな時だからこそ、それぞれの『心の拠り所』になれれば」と話す真貴子さん。「仏事だけだと敷居

が高く感じる人もいるかも知れませんが、大人の寺子屋といった形で、個々に感じるものがあれば良いです」とお参りくださる方、別れを通じてお参りになられる方、新しく足を運んでくれる方、それぞれの『心の拠り所』として光源寺は在り続ける。今後はヨガや映画に加え、書道教室など、お寺でゆっくり出来る時間を増やしていく予定だという。「もちろん、ご法座に来られる方にも、ゆっくりして頂きたいという思いが前提になります。だから、ご法座も精進料理のお昼ご飯を皆さんと一緒に用意します。だから、ご法座もうが、たくさんの人とゆっくりとした時間が共有できますからね」

住職と共に、お寺を支えてくれる人たちへの心遣いも忘れていない。『世間が変わつても、変わらない光源寺』と真貴子さんが話したように、コロナ禍だからといって、光源寺が止まるることは無いのだ。



丁寧に手入れされたお庭は、写真スポットとしてもおすすめ。緑に囲まれ、癒しの時間をぜひ。（※お庭に入る際はお声がけください）

普段はお朝事に参り、二人のお子さんのお母さん業をしながら、週に3～4日音楽教室の先生、時には二胡奏者として活躍している真貴子さん。たくさんの顔を持ちながらも、常に住職を支え、お寺のことを考え、様々な挑戦の中で未だ見ぬ新たなご縁に期待を寄せていくという。「基本的に、私は裏方。住職と一緒に考えて、悩み、楽しみながら活動をしていきます。予定が合えば、二人でイベントにも参加しますよ！お寺でやりたいことをやって：つまり、私は楽しませてもらっている立場なんですよ（笑）。自分の好きなことをできる環境を提供してくれる住職やご門徒さん、支えてくれるすべての人々に感謝しています」

インタビューの時間はあつという間に1時間を超え、最初に出してもらったジユースも気づけばお代わりしていた。「GOONだけに、『ご恩』を感じられる寺に：なんてね（笑）」と茶目っ気たっぷりにお話ししてくれた真貴子さんの優しい笑顔にも、一度会いに行つてほしい。

能美町高田。港町と山に囲まれたのどかな雰囲気漂う高田地区を200年以上に渡つて見守るお寺がある。高田交流プラザからすぐ山の方に上がっていくと見えるのが光源寺だ。コロナ禍前まで開催されていた人気の催し物『えだじま手づくり市』の舞台でもあることで有名だ。今回、そんな手づくり市の代表である海谷真貴子さんにお話を伺つた。

ただ「賑やかに、楽しく」「ではない手づくり市

「暑いでしょ。手づくりですが、良かつたらどうぞ」と、手づくりの梅ジュースと共にびつきりの笑顔で迎えてくれた真貴子さんは熊本県のご出身。2000年に住職である海谷真之さんと結婚し、光源寺に嫁いできた。「実は、私はお寺の娘なんです。小さい時からお寺に嫁ぎたいということも無くはなかつたけど、進む道がお寺から遠ざかっていなかったので、まさかお寺に嫁ぐとは思つていませんでした（笑）」江田島市に来たのは約20年前。ご門徒さんが温かく迎え入れてくれたから今の自分がいるんですね、と笑顔で話してくれる真貴子さんは、柔らかく明るいパワーでみなぎつている。

「手づくり市の始まりもご門徒さん。京都の方にあるお寺で楽しいことをやっていますよと教えてくれたのがきっかけなんです。昔ながらのお寺の賑わいを光源寺でも再現できただけでなく、『賑やかに、楽しく』ではない手づくり市

より身近に感じてもらえる、
そんな牡蠣屋を目指しています。

山岡水産

山岡大悟さん・智美さん



GoON!

光源寺
海谷 真貴子さん

ETAJIMA GoON!

Vol.7

親近感あふれる、牡蠣屋さんのおはなし。

家族とともに。
牡蠣とともに。

『家族一丸』の強みを活かして

市内には60以上の牡蠣業を営む経営体があり、生産量は全国トップクラスということは市民のみなさんもよく知っているだろ。今回、その牡蠣養殖業を支える牡蠣屋さんのひとつ「山岡水産」の2代目・山岡大悟さん、智美さんご夫婦に話を伺った。



Vol.7
能美町・高田

山岡水産

写真提供：岡本礼教（Bridge）

「看板は新しくリニューアルしたばかりなんです。先代が少しでもお客様が入りやすいように：つて看板を作成したんですけど、代が替わったばかりなので、新たな門出という気持ちで新しくしたんですよ。代替わりされたばかりだという山岡水産は、面白い取り組みをたくさん行っている。特に人気なのが、収穫したばかりの新鮮な牡蠣をその場で焼いて食べられる、小さな焼き牡蠣小屋。「シーズン中はサイクリストの方がよく利用されます。飲食店に出荷するだけじゃなくて、新鮮なものをその場で提供したいという思いもあって始めました」その他にも、特徴的な取り組みがある。それが、【SNSの活用】だ。ツイッター・インスタグラムで牡蠣に関する情報発信を行ったり、プレゼント企画を実施している。「コロナ禍で牡蠣が中々出なかつたというのもあるのですが、実は年を越した2月～3月頃の牡蠣で牡蠣の美味しさを広めたいと思ってプレゼント企画を実施してみました。特に若い人は、牡蠣屋さんの方が多いので、試食みたいな形で牡蠣の美味しさを広めたいと思つてプレゼント企画を実施してみました。少しでも親近感を持つてもらえたらしいですね」

SNSを始めたきっかけのひとつに、二人のお子さんの意見もあると



リニューアルされたばかりの壁看板。ポップな色使いと愛らしい牡蠣のキャラクターがお出迎えてくれる。

いう。「私たち島から出ていないので、外から見ないとわからないことがある。そういう考え方や意見を、子ども達が言ってくれるので、耳を傾けて微力ながら実行しています。小規模だからこそ、家族みんなの協力が必要。家族みんなで地道に頑張つていいと思っています」

新しいもの好きだという先代が看板作成やネット注文などを手探りで始めた。新しいことを始めるのは、勇気もいるし、苦労もある。それでも家族みんなで意見を出し合いかがら、少しづつ軌道に乗せ、ネット注文もSNSでの発信も反応が増えてきた。「顔の見えないお客様に牡蠣を売るときに、最初は少し不安もありました。正直、私たちはインターネットやSNSの知識も全く無かつたですし（笑）。時には周りの人に協力してもらいたいながら、わからないなりに自分たちでやってみる。一步踏み出そう！という気持ちを大事にしました。ただければ、より美味しく食べていただければ、より美味しく食べていただけます。私たちとにかく、みなさんが安心して食べていただける新鮮な牡蠣を提供し続ける。生産過程で一番大切にしていることですね」

お客様の声がダイレクトに聞こえることから、焼き牡蠣やカキ打ち体验などの取り組みも小規模ながら行ってきた。壁看板やパンフレットも今シーズンからリニューアルして、お客様は「身近な牡蠣屋さん」になれるよう更に努力を重ねている。彼らは地域で活躍されている異業種の方々との繋がりも大切にしています。SNSの活用も、生産者として江田島市と江田島産牡蠣の魅力をもつて発信したいと思っているから続け

て動いてきたのかかもしれないですね」先代がゼロから作り上げたものを引き継ぎ、どこまでいけるのか。ペースは遅くとも、家族愛とひらめきに溢れた山岡水産のファンが着実に増えていることは、来てみれば、話しても納得できる。取材後、早速SNSをフォローし、私もファンの一員になつたことは言つまでもない。

牡蠣屋さんになるために

美味しい牡蠣を食べてもらうためには、試行錯誤し続けた50年。「江田島市の海域は『清浄海域』と呼ばれる質の良い海域なので、もっとたくさんの人に食べてほしい！質問していただければ、より美味しく食べていただけます。私たちとにかく、みなさんが安心して食べていただける新鮮な牡蠣を提供し続ける。生産過程で一番大切にしていることですね」

取材時はオフシーズン。合間に仕事を風景を撮影させてもらった。「わざわざ来ててくれてありがとうございます！」牡蠣棚の補修作業をしながら素敵な笑顔で大悟さんが声をかけてくれた。今日を着実に歩み、家族とともにその先を拓いていく。山岡水産のこれからは、明るいこと間違いなし。



牡蠣棚の補修作業を行う様子。実習生のみなさんと一緒に奮闘中。

山岡水産は、身近な牡蠣屋さんになります。SNSの活用も、生産者として江田島市と江田島産牡蠣の魅力をもつて発信したいと思っているから続け



山岡水産

能美町高田 3827-1
☎0823(45)2344
✉info@yamaokasuisan.com

未来へ Go ON!

今、注目の人たち。

未来へ 続け —

GOONに出演した
ステキビートたちが推す

江田島市出身のニューフェイス。

これから活躍に期待大な
今注目の3人を紹介します。

1 / 『島出身』を強みに

楽しまずして何の人生ぞや

寺尾さんは2003年生まれの18歳。沖美町出身で、この春高校を卒業したばかりだ。お寺の息子としてご家族やご門徒さん、近所の方々に見守られながら島でのびと育つた。現在は、グローバルボイズグループであるJO1やINIを輩出した事務所・LAPONEエンタテインメントに練習生として所属し、デビューを目指して練習に励んでいる。「アイドルを目指すようになったのは、高校1年生の文化祭で BTSさんのカバーを披露した時、人前で踊る楽しさを知ったのがきっかけです」それまでは全く興味の無かつた世界。小学校から野球一筋のスポーツ少年だったといふ。そして、昨年オーディション番組に出演し、今では『アイドルとしてデビューすること』が夢になった。

インタビュー中、横で見守っていたお母さまは「この子は本当に周りの方々に恵まれて、島の温かさを今回の番組出演を通して改めて感じました」と話す。「よく人から落ち着いてるねとか、穏やかな性格とか言われますが、僕の人柄というものは、温かい人たちに囲まれながら、島で育つたからできたもの。自然豊かで空気も美味しい、のんびりできる環境なので、自分と向き合う時間を持ったんだなど、最近身に染みて感じています」お寺のご門徒さんなど、小さい頃からたくさんの人たちから良い影響を受けて育つことができました。また、ご門徒さんをはじめ、たくさんの人たちに接する機会があり、礼儀作法などを学んだ。中でも、影響を受けたのがお父さまから言われた『好きなことをしなさい』

という言葉だった。「人生とにかく挑戦、楽しもうと。進路を決めたり、オーディションを受けようと決めた時もそうですが、これまで意志を強く持つ自分で選択ができるのは、父の言葉があつたからだと思っています。『楽しまずして何の人生ぞや』『反省はしても後悔はするな』というこの2つの言葉が僕の座右の銘なのですが、父の言葉と併せて、とにかく目の前に挑戦して、自分が人生を楽しむというマインドは昔から変わってないかもしれませんね」

思いを背負つて、前へ進む

「近所を散歩することが大好きです」と寺尾さんが言うように、沖美町は海が綺麗で、沈む夕日が目の前に広がる絶景ポイントが多い。静かだから、町自体が実家みたいな感覺があることで知られている。「人も少なくてもあることを実感しました。僕のわがままを受け入れ、家族も背中を押してくれて…改めて感謝の気持ちを持つことができました。この気持ちをこれからも忘れず、自分自身が心の底から楽しんで活動を続けられればいいなと思います。必ずデビューして、大きなことを強みに、これから頑張っていきたいですね」

デビューを見せる青年・寺尾香信の挑戦は、今スタートしたばかり。インタビュー後、私たちが見えなくなるまで丁寧にお札を言い、頭を下げる寺尾さんの姿を見て、たくさんの人から愛され、「島から世界へ」羽ばたくアイドルにぜひなってほしいと、心の底から思つた。



寺尾香信

てらお・こうしん／江田島市沖美町出身

2003年8月5日生まれ

2021年にオーディション番組『PRODUCE 101 JAPAN SEASON2』に参加、ファイナルまで進出しデビュー最終候補練習生に残る。現在はLAPONEエンタテインメントに練習生として所属。



視聴者による投票でデビューするメンバーが決まるサバイバルオーディション番組『PRODUCE 101 JAPAN SEASON2』。JJの番組に参加し、『島のお坊さん』として注目を集めたのが沖美町出身の寺尾香信(てらお・こうしん)さんだ。アイドルになる夢を叶えるため、活動を続ける寺尾さんに、今後の目標や島についての思いなどを話してもらいました。

負つて、たくさんの人たちを笑顔にでき

るアイドルになりたいです」

昔からダンスや歌を習っていたわけ

はない。ダンスをすること、歌うことが

楽しい、この先ずっと続けていきたいと

いう思いが、アイドルになりたいとい

う夢を生んだ。「オーディションをきっかけに、僕を応援してくれるファンの方が

いることも知り、島の方々や周りの人た

ちも応援してくれていることを実感しま

した。僕のわがままを受け入れ、家族も

背中を押してくれて…改めて感謝の気持ちを持つことができました。この気持ちをこれからも忘れず、自分自身が心の底から楽しんで活動を続けられればいいな

と思います。必ずデビューして、大きな

ことを強みに、これから頑張っていきたいですね」

デビューを見せる青年・寺尾香信の挑

戦は、今スタートしたばかり。インタ

ビュー後、私たちが見えなくなるまで丁

寧にお札を言い、頭を下げる寺尾さん

の姿を見て、たくさんの人から愛され、「島から世界へ」羽ばたくアイドルにぜひなってほしいと、心の底から思つた。

21

20

2 / 夢を実現するため

『あの人たちのような消防士に』

江田島町鷺部にある江田島市消防本部。「おはようございます！今日はわざわざ足を運んでいただき、ありがとうございます」と元気よく出迎えてくれた早稲田さんは、新庁舎が完成したその年に採用された、着任3年目の消防士。生まれてから一度も島から出ずにつなぎなきつかけは、東日本大震災のニュースだったんです」

日本人にとって決して忘ることのできない東日本大震災。日本中を激しい揺れが襲い、目の当たりにした自然災害が及ぼす被害の大きさへの衝撃がたくさん人の胸に強く刻まれた。当時小学生だった早稲田さんも、そのうちの一人。ニュースや映像を通して見る被害の大きさに衝撃を受けた。「自然災害の恐怖しさを実感し、愕然としました。そんな時、テレビから流れてきた、危険な場所で活動を続けるハイパースキュー隊の映像を見て目が離せなくなつたんです」大規模火災の消防活動や、福島第一原発での放水活動など、命を落とす危険性の高い現場で、困難に立ち向かうハイパースキュー隊の姿に早稲田さんは釘付けになつた。「とても危険な現場にいかかわらず、人のために活動し続ける姿を見て、純粋に格好いいと思ったんです。『命を懸けてでも守る』という姿を初めて見て、僕は釘付けになつた。『島の人たちのように誰かを守る職業に就きたいと思いました』その時から、早稲田さんは「あの人たちのような消防士になる」夢は「あの人たちのように誰かを守る職業に就きたい」という想いが芽生えました。憧れの人たちのように東京消

防厅に勤め、ハイパースキュー隊になる！しかし、高校3年生の時に江田島市で消防士になろうと決心した出来事が起きた。「お世話になつていていた親戚の人が、目の前で亡くなつて。僕は何もできなかつた。とても悔しく、悲しくて：その時、『僕の周りにいる身近な人たちを守りたい』と強く思つたんです」島に残ろうと決心した早稲田さんは、大柿高校卒業生としては十数年ぶりに誕生した、江田島市の消防士となつた。

貫く意志と、努力

「実は、高校から県外の学校へ進学する予定だつたんですよ。その時も夢は変わらず消防士になることだつたんですが、学ぶ場所は関係なく、自分が努力さえすれば道が拓けるのではないかと思つたんです。地元で、時間に追われることなくゆつくり勉強ができる。だったら大柿高校へ行こうと思つて、進路を変えました」

進む道は、すべて自分で決める。中学校も、やりたいことがあつたから能美中学校へ通うことになった。消防士になるとあの時決めたから、消防士になつた。「僕は頑固者なんです。小さい頃から、決めたことは絶対。そのため何をすればいいかという判断も、誰に何を言われようが自分で判断する。言い換えればわがままなんですが（笑）、両親が本当に僕のことをよく理解してくれて、その度に応援してくれる。だから僕も意志がブレることなく、夢を叶えることができたんでしょうね。両親には本当に感謝しています」

江田島市消防本部は、日々災害対応に向

3 / 好きな場所で好きな仕事を

オペア留学への挑戦

『ニコニコ可愛らしい女性』という言葉が良く似合う田畠さんは、埼玉県出身の25歳。江田島市には、小学2年生の時に家庭の都合で引っ越してきた。高校卒業後、都会に憧れて東京の大学へ進学したが、環境に慣れることができず、上京して半年で大学を中退することになつた。「新しい環境にとにかく疲れてしまつたんが、家から出ることが怖くなつてしまつたんです」島に戻つてからは劣等感との鬭い。進学や就職で毎日奮闘している友達を見ては、「自分だけ何をしているんだろう」と落ち込む日々が続いたという。中々外出れず、どんどん人との交流も減つていつた。「両親にも申し訳ないし、本当に落ち込んでいました」そんな中、田畠さんは突然の転機が訪れる。「体調が回復してきた時に、ふと『オペア留学』といふ言葉を耳にしたんです」オペア（Au Pair）留学とは、現地家庭にホームステイをしながら、学校に通つたり、子どもの面倒をみたり、英語を学びたいといふ思いがあつた田畠さんは、インターネットで情報を収集し、思い切つてこの制度を利用して留学することを決断した。「今思えば、少し前まで外に出れなかつたのに、突然海外に行くなんて凄い！と思いついたのですが（笑）、その時の私は『何もなかつた』ので、やりたいことも、夢もなかつた。だから、自分探しの旅に行つてしまふ」田畠さんはアルバイトをしてお金を少しずつ貯め、オーストラリアに飛び立つた。

現在、田畠さんは江田島荘でお客様対応を

海外で気付いた島への思い

『ニコニコ可愛らしい女性』という言葉がホーミーステイ先にて家の掃除と週1回料理の提供。合間に寿司屋でのアルバイトをしながら過ごすことになつた田畠さん。その後、シェアハウスに生活を移し、イチゴ農場で働くなどして、オーストラリアで2年を過ごした。「勢いで行ったのもあつて、無我夢中で帰国後、やはり海外で仕事をしながら海外へ渡つたにもかかわらず、さまざまな場所を訪れるたびに江田島市を思い出すようになって、現地で出会つた人たちに恵まれた。その時からですかね、性格がガラッと変わつたのは」現地で出会つた人たちに恵まれたことにはもちろん、個人としてできることもたくさんあると田畠市の魅力を伝えていきたいんですよ！江田島荘のスタッフとして活動していくみたい。何年かかるかはわかりませんが、自分なりに努力を続けて、いつかは立派な救命士になれるよう、これからも頑張ります」

これまでも貫く強い意志と努力する姿勢を持ち続けたことで夢を実現させてきた。早稲田さんが救命士として江田島市で活躍する日は、近い将来必ず来るだろう。

「お客様から絵を描いてもらつたり、メッセージをもらうこともあります」と満面の笑みでエピソードを話してくれる田畠神菜（たばた・かんな）さんは、江田島荘でフロントスタッフとして働いている。今の彼女からは想像できない、過去のお話を江田島荘に勤務することとなつた経緯などをたくさん話してもらいました。

中心に、フロント業務を担当。「海外にいた時と変わらないくらい刺激的で、働き甲斐があります。『好きな場所で好きな仕事を』が、今実現できているんじゃないでしょうか（笑）」さまざまなかつくりに安心・安全なまちづくりに努めている。最後に、夢を叶えた早稲田さんに消防士として今の夢は何かと質問をした。「自分の過去の経験、そして今消防士となつての経験をふまえて、『救命士』になりたいと思っています。救助活動などで最善な処置、アプローチができるようになるために、救助隊の救命士として活動していくみたい。何年かかるかはわかりませんが、自分なりに努力を続けて、いつかは立派な救命士になれるよう、これからも頑張ります」

これまでも貫く強い意志と努力する姿勢を持ち続けたことで夢を実現させてきた。早稲田さんが救命士として江田島市で活躍する日は、近い将来必ず来るだろう。



早稲田悠生

わせだ・ゆうき

/ 江田島市大柿町出身

2000年11月29日生まれ

能美中学校から広島県立大柿高等学校へ進学、卒業後に江田島市消防本部に勤め、現在消防士として市内で活動している。



田畠神菜

たばた・かんな／埼玉県出身 1996年11月12日生まれ

小学2年生の時、祖父母が住む江田島市へ移住。オペア留学制度を利用してオーストラリアで2年間を過ごす。海外生活を経て江田島市に戻り、現在は江田島荘のフロントスタッフとして勤務。

広島県立大柿高等学校から十数年ぶりに江田島市消防本部へ――。小学生の頃から「消防士になりたい」という夢を持ち続け、夢を叶えた早稲田悠生（わせだ・ゆうき）さん。一度も島を出ることなく夢を叶えた早稲田さんの『これまでとこれから』とは。

三高地区が盛り上がるきっかけの
お店になりたいです。



Felice Kitchen 中森聰さん

Go ON!



坂村陽平さん

飲食店をやっていたわけでもなく、建設業や釣り具販売など畑違いのことをしていました。そんな時、人生の転機といた。それが、江田島市からの事業者募集の話を聞いて『自分の本当にしたいことをしてみよう』という思いが出てきたのです、気持ちに正直になつてみたんです』

飲食店へのチャレンジ、そして江田島市への移住など、思いきった決断をした中森さんは、だつたが、実は昔から江田島市には深い縁があったといふ。『僕の祖母が大柿高校の先輩だったんですよ。なので必然的に父親は江田島市で幼少期を過ごしていいたそう。だから、僕が小さい頃は父親に連れられて江田島市に何度も来ていたんです。釣りに来たり海水浴に来たり…。勝手に『第二の故郷』じゃないですか、親しみは常にあって、昔から大好きな場所でした』

ここ数年、江田島市の人口が減少しているというニュースも耳にしていた。ニュースを聞く度に、何か手伝いができるかもしれません：という思いもあった。そんな中での事業者募集の知らせ。「大好きな場所で何かをするなら今なんじやないかと

喜んでくれるなら、小さなお店を買える場所があまり無いじゃありませんか。だから、誰かがいる感じになりました(笑)。でも、江田島市内つてお土産を買う土産屋さんでもいいなと思つたんです。どちらにしろ、少

いって、何かお手伝いができる所があまり無いという話を聞いて、セーブストアのお弁当がとても有名だったので：お店を畳まれてからお弁当を買う場所が近くなつたので：お弁当を買つて始めたんです』



Felice Kitchen

三高港・切符売り場横すぐ
営業時間：11:00～15:30
定休日：水曜日／第1・3木曜日
☎090-8174-5509



1. 中森さんおすすめのグリーンスムージー(450円)。野菜と果物たっぷりでとっても爽やかな味わい！お子様にもおすすめです♪
2. 人気の日替わり弁当やスペシャルスムージーなど、こだわりが詰まったメニューがたくさん。三高港にお立ち寄りの際はぜひ覗いてみてください！



1. 中森さんおすすめのグリーンスムージー(450円)。野菜と果物たっぷりでとっても爽やかな味わい！お子様にもおすすめです♪
2. 人気の日替わり弁当やスペシャルスムージーなど、こだわりが詰まったメニューがたくさん。三高港にお立ち寄りの際はぜひ覗いてみてください！

すぐになりました。本当に良いタイミングでしたね』

みんなを繋ぐ『架け橋』
のようなお店にしたい

オープンしてから1年半、

手軽に楽しんでもらえる軽

に、このお店でできることは

ば、僕は嬉しいですから』

三高港と広島市をつなげる、

小さなことでもやつてみたい。

「幸せ」



港の
ちいさな
幸せ

Felice



Vol.10
フェリーチェ キッチン
Felice Kitchen
中森聰



江田島市西の玄関口・三高港にある『Felice Kitchen』は2020年8月7日に開店した小さなお店だ。「おすすめは江田島産の野菜などを使用したグリーンスムージーですね」と優しい口調で話してくれたのは、このお店のオーナー中森さん。そしてもう一人、一緒にお店を切り盛りしているのが地元市民の引地玲子さんだ。元々、中森さんの奥様の親友であつた引地さんと「いつか二人で何かしたいね」と冗談半分、本気半分で話していた中で、2017年に江田島市から港湾施設に入る事業者募集の知らせが出た。引地さんの地元・江田島市という点や中森さんのタイミングも良く、応募したのがお店の始まりだそうだ。

「僕は生まれも育ちも広島市内。このお店のオープンと共に家族で江田島市へ移住してきました。それに、元々

江田島市西の玄関口・三高港。『Felice Kitchen』は、スマートハウスなどの軽食販売を行つてている小さなホットやオーナーさんは一体どんな人なのか：通つているお客さんですらよく知らないという、謎多き店に迫ります。

第一の故郷で

飲食店にチャレンジ

『面白い』と思ってもらえるような
場所にしたい。



GoON!

Felice Kitchen
中森 晴さん

江田島オート 梶田 克哉さん

江田島市が好きになつた
ノは恵まれ

トを繼ぐ前からデイーラーに勤めていたそう。敷地内には、最新の車から貴重な昔の車も並んでおり、インタビューセンターの中にも思わず目が行ってしまう。「僕は昔の車が好きなんです。もちろん最新の車も魅力的なものが多いけれど、僕が持っている技術は、昔の車の方が通用する：なんてつたつて車とお喋りができるんで！だから、職場体験で学生が来た際には、昔ながらのイヤの交換方法などを伝えるようになります。今の車は性能が良いのでなかなか壊れないとは思いますが、何かあつた時のために知識として持つておくのは良いことだと思つてね」

いので大変ではありました
が、地元の人や家族に支えられながら、毎日忙しく過ごさ
せてもらっていました」移住
当初は子育ての真っ最中だつ
たこともあり、仕事もプライ
ベートも忙しかつたという梶
田さん。そんな環境に変化が
現れたのはここ3～4年の話
だという。きっかけは、移住
者をはじめとした、さまざま
な人たちとの出会いだつた。
「気が付くと江田島市に移
住者も増えていて、面白そ
な人たちがたくさんいた。地
元の人たちも行動を起こす人
が増えていて、驚いたんですね。
そこから、行動範囲を広
げてみたら、面白い人たちと
の出会いも増えて、仕事もプ
ライベートもより楽しくなつ
たんです」梶田さんは、それ
まで興味の無かつたアウトリ
ガーカヌーやSUPなどの海
遊びにも挑戦し、交流の輪を
広げていった。輪が広がれば、
面白いことに自然と江田島
オートの名前も広まつてい
く。「名前は知っているし、
顔も見たことはあるけど、僕
が何をしている人なのか知ら
ない人も多くて。色んな場所
に顔を出す度に、自然と江田
島オートの宣伝にもなつてい
たんですよ。それに、人と
のつながりが増えていくほ

「たゞ、お気に入りのお店や場所も増えていって、江田島市のことがあつと好きになりました」

多くの人の出会いを経て今では『江田島オートのかづちゃん』で通るようになつただからといって、梶田さんは周りに仕事を求めるわけでもなく、みんなが気軽に相談できる存在になれればと話す「頭の片隅に、そういうえばこんな人がおつたなと思つてもらえるだけで有難いです。車のことで何かあつた時には、フルランクに相談してもらえればと思うし、僕自身もお世話になつた人たちには、返していただきたいという思いがある。やっぱり人は、頼り頼られ、支え合つて生きていくのですから」

仲良くしてくれる人たちへの感謝の気持ちを忘れず、仕事でも仕事以外でも一生懸命働く。自分も誰かに刺激を与えられるような、面白い人の一員になりたいと語る梶田さんは、今後は車だけに留まらず、さまざまのことに対戦していくみたいそうだ。「今、江田島市は面白いと思うよ！移住の人たちも増えて、外から持つてくる知識とか経験とか見たり聞いたりするだけでも、刺激になります。だから先の

ETAJIMA GoON!

Vol.11

『好き』を 生かして。



Vol.11

『古いやり方』

案内された大きなショールームの目の前に広がる絶景。その絶景を見つめる美人なマネキンや、手描きのポップアート、ぬいぐるみなどのディスプレイに驚いていると「これはお母さんの趣味なんよ（笑）。面白いじゃろ？」と声を掛けてくれた。「ショールームには普通は車があると思うんだけど、色々問題があつて置けないだつたら、海沿いの車屋さん」という立地を生かして、綺麗な景色を提供しようと思つてね」そう言つて、満面の笑みを見せるのは社長の梶田さんだ。

江田島オートは、自動車販売や整備全般を行う車屋さん。梶田さんは3代目、結婚を機に江田島市に移住され、江田島オートを継いだ。出身は県の東部、福山方面だと教えてくれた梶田さんは、江田島オートを

すべては『縁』で
つながっている。



江田島訪問看護ステーションえん

佐久間 泰三さん & 松村 友賀さん

仕事もこなしていくのも充実してい
る。僕に関わってくださるみなさん
には、本当に感謝しています」と優
しい笑顔で話す佐久間さんは、個人
的な今後の目標も次のように話して
くれた。「これからは自由に動ける
時間が増える分、仕事だけではなく、
趣味のSUPを通してだつたり、畑
仕事などを通して地域の人との交流
を増やしたい。僕も何らかの形で『地
域おこし』ができるような人になり
たいですね」

新しい働き方を自ら実践し、新た
な可能性を見出す。佐久間さんの笑
顔から、やりがいを感じて働くこと
の大切さを、改めて学んだ気がした。

当時にいざ接する機会が多い手を差し伸べてくれたのは、知識や経験も豊富な看護師の先輩たちや旦那さんだった。「私より断然知識も経験も豊富な先輩方に話をしたら、早く手伝つてくれると言つてくれて：そこが一番大きかったんです。みんながいれば心強いし、やってみよう！」と思つて開業しました」

また、以前より構想していたとう『訪問看護とリハビリの連携』という形も、佐久間さんが力を貸してくれることになり実現した。信頼を寄せるメンバーのひとりである松田

江田島訪問看護ステーション えん



4月1日には『居宅介護支援事業所えん寿』開設予定!みなさまのご相談にお応えし、心できる最適なケアプランをご提案しま

大柿町小古江 1576-7

 0823-27-6035

✉ zaijenn20220101@gmail.com

A group of six people, three men and three women, are standing on a bridge. They are all wearing face masks. The man in the red jacket is facing away from the camera, while the others are looking towards him or each other. In the background, there is a body of water and some hills or mountains under a clear sky.



こんな時代だからこそ、家の選択をもつと増やせるようにしたいと話す「えん」のみなさん。「訪問看護だけではなく、介護やリハビリ、居宅など信頼できる専門的なスタッフが揃っているので、個々が持つ知識と経験を活かして、より良いサービスを提供できるよう頑張ります」

名前の通り、すべては縁でつながった。「えん」で働くみなさんは、今日もみんなの笑顔をつなぐため、奔走している。

ビリと訪問看護を連携したら、より充実したサービスができる。こうやつて松村さんが新たなステーションを立ち上げてくれたことによつて、やつと実現できたんですよ」「コロナ禍となり、病院での制限も増えた。入院患者には面会すらできず、感染リスクを恐れて病院に通うこともできなくなつた人も大勢いる。「だからこそ、私たちがやるべき支援の形というのも見えました。例えば、家の人人が常にいる状況でのケア、リハビリ、看取りもそうです。身近な人の声が聞こえると安心する、病院特有の匂いではなく、心地よい家の匂いを感じながら、治療したり、最期の時間を過ごす：わざわざ通わなくていい、気を遣わなくていい、という環境にしてあげることが私たちのやるべきことのひとつ」

「江田島訪問看護ステーションえん」の思い

『家』といふ選択肢。



働き方に挑戦する佐久間さん。そんな佐久間さんの新しい勤め先となる「訪問看護ステーションえん」の管理者・松村さん。地域を支えるお二人に仕事や地域への思いなどについて、お話を聞きました。

働き方に挑戦する佐久間さん。そんな佐久間さんの新しい勤め先となる「訪問看護ステーションえん」の管理者・松村さん。地域を支えるお二人に仕事や地域への思いなどについて、お話を聞きました。



GoON! MAP

みんなに会いに、
江田島市へ行こう。



SHOP LIST

- ① NORA
- ② 安原自動車
- ③ 寶持寺
- ④ 10サンジ
- ⑤ 海友舎
- ⑥ 光源寺
- ⑦ 山岡水産
- ⑧ 小鳩道雄さん(こづた包装)
- ⑨ ゴーセン曳航株式会社
- ⑩ Felice Kitchen
- ⑪ 江田島オート
- ⑫ 江田島訪問看護ステーションえん
- ⑬ 江田島荘

- Feature**
- ⑭ 新北京
 - ⑮ マルサ・やながわ水産
 - ⑯ てくてくのさつまいも本舗
 - ⑰ 紅来軒
 - ⑱ 平井興産
 - ⑲ Ponte TAKATA
 - ⑳ Hawk Nest Family Village
 - ㉑ 濱口醤油

NEWS & Release



濱口醤油 牡蠣の白だし

2月10日(木)東京ビッグサイトで行われた『第31回グルメ & ダイニングスタイルショーカンパニー春2022』にて有限会社濱口醤油の「いりこの白だし これ一本500ml・638円(税別)」が準大賞を受賞!江田島市産のいりこのままボトルに付け込んだ白だしです。まろやかないりこの風味が色々な料理の素材を引き立てます。そんな濱口醤油から新商品が登場。その名も「牡蠣の白だし・450円(税別)」。これ一つで美味しい牡蠣めしもできちゃう!料理が苦手な人にもおすすめです。

🔍「濱口醤油」で検索



江田島銘醸 HIROSHIMA 潟路

『地方創生のシンボルとなる日本酒を』をコンセプトに江田島市老舗の酒蔵・江田島銘醸と三原市の17代続く米農家が日本酒「HIROSHIMA 潟路(ふうろ)」を共同開発。2月中旬から始まった予約販売では初日から予想を超える発注数で大人気!男女問わず好まれる、優しくすっきりとした味わいが特徴の日本酒です。江田島市のふるさと納税の返礼品としても登録されていますので、気になる方はぜひお試しください。

720ml 7,500円(税込)



瀬戸内いとなみ舎 オリーブオイル(江田島／能美島)

オリーブ専門の地域おこし協力隊として活動していた峰尾亮平さんが代表を務める瀬戸内いとなみ舎からオリーブオイルが新発売!江田島市産オリーブを100%使用したオリーブオイルは、「江田島ブレンド」「能美島ブレンド」の2種類。味くらべも楽しめる、江田島市の新しいオリーブオイルをぜひ。

各種50ml 1,500円
100ml 2,900円(税込)

🔍「瀬戸内いとなみ舎」で検索



Hawk Nest Family Village

キャンプ場『Hawk Nest Family Village ホークネストファミリービレッジ』がNEW OPEN!瀬戸内海の穏やかな気候と共にくつろげるキャンプ場で、日常から離れて、ゆったりとした時間を過ごせます。ペット同伴利用も可能で、家族はもちろん友人、大切な方との利用にも適したロケーションです。予約はホームページから。

江田島市江田島町切串4丁目18

お問い合わせ▶080-5007-6436

ご利用時間▶13:00~翌日11:00(お問い合わせは10:00~20:00まで)

クレジットカード、QRコード支払い可

施設の詳細についてはホームページをご参照ください。

🔍「ホークネストファミリービレッジ」で検索



Ponte TAKATA

築80年の空き家をリノベーションした、コワーキングスペース『Ponte TAKATA(ポンテタカタ)』がオープン。料金は一日利用500円・月会員2,000円・年会員20,000円から。また、江田島市民や移住者が江田島市で生きていくために空き家活用プロジェクトを資金的に支援してくださる「賛助会員」も広く募集しています。その他にも、イベントやワークショップなどの貸切利用も可能ですので、自分のスタイルに合わせてお使いください。

江田島市能美町高田3460

最寄り港:高田港/徒歩約8分

営業時間▶8:00~18:00

休業日▶土・日・祝 ※休業日および時間外での利用も可
お問い合わせ▶070-4030-068(NORA DESIGN)